The Japanese Association for Chest Surgery

静岡県呼吸器外科医会　第15回集談会抄録集

日　　時：平成16年1月10日
会　　場：ホテルシティオ静岡
当番世話人：稲葉　浩久
特別講演：司会　稲葉　浩久
東北大学医学部加齢医学研究所　呼吸器再建研究分野　教授　**近藤　丘**
『わが国の肺移植医療の現状と課題』

セッションⅠ　司会　**卜部　憲和**（沼津市立病院　呼吸器外科）

1. 画像上短期間に急速な変化を示した右上葉原発肺癌の一例

聖隷浜松病院 呼吸器外科　三村真一郎，中村　徹，豊田　太

症例は68歳女性．咳嗽と熱発を主訴に近医受診し，画像上右上肺野の結節影を指摘され，当院紹介受診．右肺癌の診断で入院待機中に急速に増大し，右上葉切除を施行した．原発巣は空洞を含めて最大径9.0cmで，組織型は中分化型扁平上皮癌，病期はT4N2M0 stage IIIBであった．扁平上皮癌の空洞形成は時に見られる変化だが，本症例では比較的短期間に急速な変化を来したため，若干の文献的考察を加えて報告する．

2. 同一腫瘤内に肺結核と肺癌を合併した1例

藤枝市立総合病院 心臓呼吸器外科　板谷　徹，閏谷　洋，高橋　毅

76歳女性．背部痛の精査にて大動脈に接する腫瘍性病変が疑われ手術施行．術中迅速診断で肺腺癌と診断され，左S^6の腫瘍がS^{1+2}に浸潤している所見があり左肺全摘となった．病理所見では癌に接して結核病巣を認めた．また術後，歩行中心肺停止となり永眠された．剖検にて肺血栓塞栓症と診断．肺癌と肺結核の合併，術後肺血栓塞栓症につき報告する．

3. BOOP合併肺癌の1例

磐田市立総合病院 呼吸器外科　伊藤　靖，大井　諭

77歳，男性．健診で胸部異常影を指摘され，H15年9/16に入院．左S^{1+2}の腺癌と診断されたが，精査中に左上葉に新たな浸潤影が出現．腫瘍に伴う閉塞性肺炎と考え，10/6に手術施行．炎症は下葉に波及しており，左肺全摘を行った．病理診断はBOOP合併肺腺癌（pTIN2MO，stage IIIA）で，術後第18日に右肺にBOOPと考えられる病変が出現し，ステロイドパルス療法を2回行って軽快退院した．

4. 術後11年目に肺転移，肋骨転移を来たした，膀胱原発褐色細胞腫の一例

浜松医科大学 第一外科　小野田貴信，鈴木　一也，高持　一矢，船井　和仁
柄山　正人，春藤　恭昌，浅野　寿利，数井　暉久

症例は23歳の女性．1992年に膀胱原発褐色細胞腫に対し切除術を施行した．2003年5月19日，検診の胸部レントゲンで左第8肋骨に異常陰影を指摘された．10月14日に当院整形外科にて左第8肋骨切除を施行し，病理組織診で褐色細胞腫の肋骨転移と診断した．

肋骨切除後に測定した血中，尿中ノルアドレナリンが異常高値を示したため，全身の精査を行ったところ，胸部CTで右肺下葉S8に1cm大の結節が1個認められた．他の臓器に異常所見を認めなかったため，褐色細

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association for Chest Surgery

胞腫の肺転移を疑い，11月4日に当科で胸腔鏡下右肺下葉S8部分切除術を施行した．病理組織診で褐色細胞腫の肺転移と診断した．本症例について，若干の文献的考察を加えて報告する．

セッションII　司会　**北　雄介**（榛原総合病院　呼吸器外科）

5. 術前に診断できなかったsolitary fibrous tumorの1例

沼津市立病院 呼吸器外科　矢島　澄鎮，卜部　憲和，朝井　克之

症例は53歳男性．2年前から指摘されていた胸部異常影を再度指摘され当科紹介された．胸部X·Pでは右下肺野30×15mmの結節影を認めたが増大傾向はなかった．胸部CTでは右S^9bの胸膜直下に腫瘤を認めたが，診断に至らず胸腔鏡下腫瘤摘出術を行った．腫瘤は有茎性臓側胸膜由来腫瘤で病理組織学的検査でsolitary fibrous tumorと診断された．

6. 頸部縦隔脂肪肉腫の1切除例

静岡県立静岡がんセンター 呼吸器外科　林　浩三，大出　泰久，馬庭　知弘，保坂　誠
中川加寿夫，奥村　武弘，近藤　晴彦
同頭頸科　鬼塚　哲郎
同病理診断科　伊藤以知郎，亀谷　徹

【症例】71歳，男性．右頸部腫脹にて，当院を紹介受診．触診では軟らかく，CT/MRI所見と合わせて，右頸部・下咽頭右後面から気管に沿って中縦隔まで進展する脂肪肉腫を疑い，手術を施行した．手術は，右頸部切開・胸骨正中切開にてアプローチし，頸部縦隔腫瘍全摘出，甲状腺右葉合併切除にて完全切除した．術後，一過性の右反回神経麻痺を認めたが大きな後遺症なく退院した．病理組織学的に高分化型脂肪肉腫と診断された．

7. 縦隔腫瘍との鑑別を要した食道原発消化管間質腫瘍の一切除例

静岡県立総合病院 呼吸器外科　広瀬　正秀，太田伸一郎，小柳津　毅

症例は39才女性．左胸腔内横隔膜上の13cm径の食道原発腫瘍を切除した．腫瘍は，異型紡錘形細胞の束状増生巣から成り，c-kit，CD3陽性，s-100，desmin陰性で，消化管間質腫瘍と診断された．10cm径を越えるハイリスク群にて再発予防にImatinibを投与中である．

8. 縦隔リンパ管腫の2例

静岡市立静岡病院 呼吸器外科　中島　大輔，山科　明彦，山田　徹，岩切章太郎
千原　幸司

症例1は70歳，男性．1982年9月，縦隔腫瘍部分切除施行．1999年4月，胸部CT上，気管を中心に発育した腫瘤を認めた．同年7月，腫瘍部分切除，胸管結紮切断施行．症例2は64歳，女性．2000年1月，胸部X線写真上，縦隔陰影に重なる腫瘤影を指摘．胸部MR上，気管右壁に境界明瞭，内部信号（T1低，T2高）均一な腫瘤を認めた．胸腔鏡補助下に腫瘍摘出術施行し，リンパ管腫の診断．術後合併症は認めず．

NII-Electronic Library Service